

## 第 2 回

# 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議

平成28年11月11日

## 会議要録

## 平成 28 年度 第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議 会議要録

会議体の名称	平成 28 年度 第 2 回 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議	
事務局 (担当課)	島田市市長戦略部戦略推進課	
開催日時	平成 28 年 11 月 11 日 (金) 10:00~12:00	
開催場所	島田市役所 4 階第 3 委員会室	
議題	<p>&lt;協議事項&gt;</p> <p>(1) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価、検証について (PDCA サイクルの実施)</p> <p>&lt;報告事項&gt;</p> <p>(2) 地方創生に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創生推進交付金事業 (藤枝市との連携事業)</li> <li>・地方創生拠点整備交付金事業</li> </ul> <p>&lt;意見交換&gt;</p> <p>(3) 島田市の人口推移等について</p>	
出席者	島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島田市自治会連合会 大石会長</li> <li>・島田青年会議所 齋藤専務理事</li> <li>・お母さん業界新聞 静岡版 杉本編集長 (欠席)</li> <li>・島田市小中学校PTA連絡協議会 横田川会長</li> <li>・NPOクロスメディア島田 大石理事長</li> <li>・島田商工会議所 岩原会頭</li> <li>・島田市商工会 大塚会長</li> <li>・島田観光協会 大久保会長</li> <li>・島田市農業経営振興会 渡邊部会長</li> <li>・静岡県立島田商業高等学校 犬塚校長</li> <li>・島田市校長会 服部・金谷小学校長</li> <li>・島田信用金庫 常務理事 飯塚 誉之</li> <li>・島田・榛北地区労働者福祉協議会 白方事務局次長 (代理出席)</li> <li>・島田公共職業安定所 中村所長</li> <li>・島田市 染谷市長</li> </ul>
	オブザーバー	静岡県中部地域政策局 掛澤局長
	事務局	島田市市長戦略部戦略推進課 田中課長
	市関係者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高木副市長</li> <li>・濱田教育長 (欠席)</li> <li>・牛尾理事</li> <li>・鈴木市長戦略部長</li> </ul>

配付資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議次第</li> <li>● 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議席次表</li> <li>● 島田市まち・ひと・しごと創生市民会議構成員</li> <li>● (資料 1) 島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価・検証について (PDCA サイクルの実施)</li> <li>● (資料 2) 地方創生推進交付金事業 (藤枝市との連携事業) 「ICT でひとの流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」</li> </ul>
------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>● (資料3) 地方創生拠点整備交付金事業</li> <li>● (資料4) 島田市の人口の現状及び転入者・転出者アンケート集計結果について</li> <li>● (資料5) 藤枝市への転出者に係る傾向分析について</li> <li>● (参考) ハローワーク島田の業務改善の取組</li> <li>● (参考) ハローワーク×ママProの取組</li> </ul>
--	--

## 【会議要録】

### ＜開会の挨拶＞

○市長戦略部長 皆様、御多用の所、御出席を賜り、誠にありがとうございます。本日の司会をさせていただきます島田市市長戦略部長の鈴木と申します。よろしく願いいたします。それでは、定刻となりましたので、ただ今から、「平成28年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を開催させていただきます。それでは、はじめに染谷絹代島田市市長から、御挨拶申し上げます。染谷市長よりお願いします。

○染谷市長 皆様こんにちは。市長の染谷でございます。本日は御多忙の中、第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。開会にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

この会議は、本日が第2回目の開催となります。第1回は5月23日に開催しており、総合戦略の策定及び地方創生交付金を活用した事業等、平成27年度に実施してまいりました事業の状況を振り返るとともに、平成28年度の地方創生に関する取組について、御説明させていただきました。

さて、去る10月26日、総務省から平成27年国勢調査の確定値が公表されました。それによりますと、日本の総人口は、約1億2,700万人で、平成22年の前回調査に比べて約100万人減少し、1920年の調査開始以来、初の人口減となりました。さらに、15歳未満人口の割合は過去最低、65歳以上人口の割合は過去最高となり、少子高齢化がより一層進んだことが示されました。今回初めて、日本の人口が減少局面を迎えたことにより、市民一人ひとりにとって「人口減少」が身近な問題に感じられるようになったのではないかと思います。

また、市政を運営する上では、少子高齢化の進行に伴い、医療や介護への支出が増加する半面、税収は減少していきますので、これまで以上に「選択と集中」を重ね、効果的かつ効率的な予算の執行に注力していかなければならないと感じております。

本日の会議では、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく本市の昨年度の取組について、内部での評価、検証結果を御説明させていただきますので、それについて御議論いただき、会議の後半には、地方創生交付金を活用した新たな取組等を御説明させていただく予定となっております。

限られた時間ではございますが、皆様から忌憚のない御意見をいただきたいと思っておりますので、どうか御協力いただきますようお願い申し上げます。私の挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしく願いいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございます。当会議には、オブザーバーとして静岡県中部地域政策局長様に御参画いただいておりますので、御挨拶をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○オブザーバー 日頃より、県政の推進につきまして御理解と御協力を賜り、お礼申し上げます。さて、中部地域政策局では、地方創生を推進するため、昨年度に「美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生県民会議 志太榛原・中東遠地域会議」を設置し、各界・各層の代表者の皆様の参画のもと、昨年10月に、美しい“ふじのくに”まち・ひと・しごと創生「長期人口ビジョン」及び「総合戦略」を策定しました。

今年度は、8月に同地域会議を開催し、策定した「総合戦略」の進捗状況を評価するとともに、「交流人口の拡大」と「社会全体で子育てを支援する意識の情勢」の2テーマについて、構成員の方から御意見を伺った次第であります。伺った御意見・御提案については、現在、県庁内でその対応策について検討しているところであり、今後の施策立案に反映していくことになっております。

また、中部地域政策局では、現在の人手不足の解消、労働生産性の向上の点から今年度、島田市を含む管内4市町と共同で、「新しい働き方」として注目されているテレワークの取組として「クラウドソーシングの普及」と「IT企業のサテライトオフィスの誘致」を行っております。

本日の資料を拝見しますと、島田市と藤枝市が連携して「ICTで人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」を国の地方創生推進交付金に申請しているところであり、このプロジェクトでは、「新しい働き方の創出と推進」としてクラウドソーシングを推進し、子育て世代を支援していくこととありますので、引き続き、当局の取組との連携につきまして、御協力をお願いしたいと思います。本日は、よろしくお願いいたします。

○市長戦略部長 ありがとうございます。

ここで、今回、当市民会議の構成員の変更がありましたので、お知らせいたします。島田商工会議所の会頭として、新たに岩原様が着任されました。

それでは、議事に入らせていただきます。議長を染谷市長をお願いしたいと思います。

#### <議事（協議事項）>

○染谷市長 依頼のあった議長を務めさせていただきます。

議事に入ります前に、この度、厚生労働省が開催する「第4回ハローワーク業務改善コンクール」において、島田公共職業安定所が全国第3位に入賞されました。企業側の障害者雇用への不安を解消するため、ハローワーク、就労支援機関、特別支援学校が一体となって推進するという画期的な取組ですので、中村所長の方からご紹介いただきたいと思います。

中村所長、よろしくお願いいたします。

- A 構成員
- ・「第4回ハローワーク業務改善コンクール」において、ハローワーク島田の業務改善の取組が全国3位に入賞した。
  - ・「ハローワーク業務改善コンクール」は、職員の自主性、創意工夫を生かしたサービス改善の取組を全国のハローワークから募集し、厳正な審査のうえ、優れた取組を表彰するもので、平成22年から2年に1度実施しており、今回で4回目であった。
  - ・ハローワーク島田の取組内容としては、「障害者を雇用したいがどうしてもよいかかわからない」という企業側の雇用への不安を解消するため、ハローワークと就労支援機関、特別支援学校が一体となって、「職域開発見学会」を実施した。
  - ・支援機関のそれぞれの就労支援員が企業を見学し、職務検討会を行うことにより、見学会を行った企業における障害者雇用を実現、ベストマッチングを推進した。
  - ・今現在、障害者2名の雇用が達成された。当初は、非正規雇用だったが、今では正社員になることができた。
  - ・この取組により、障害者雇用を促進することができ、企業側、障害者側及びハローワーク側、3者にとってメリットがあるものとなっているため、これを「島田方式」として、地域の障害者雇用の促進のため、広めていきたい。

- 染谷市長
- ありがとうございました。それでは、議事に入ります。  
協議事項「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価、検証について（PDCAサイクルの実施）」について、事務局から説明をお願いします。

- 事務局
- 資料1**の説明  
市で行った「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価、検証」について、説明する。
- ・PDCAサイクルの説明
  - ・評価基準の説明
  - ・内部評価結果に関する説明
  - ・今回は、「島田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直しや改訂等  
は行わず、引き続き、同総合戦略の目標達成に向けて、様々な施策を推進、展開していく。

- 染谷市長
- ただいまの説明について、質疑、御意見等はございませんか。

- B 構成員
- 資料1の中身に直接関係する訳ではありませんが、今後の戦略のことで、2点申し上げたいと思います。1つ目は、最近、島田市は、東京都港区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」というものを締結したと聞きました。かつては、「木都島田」として知られていた島田市です。ので、「木都島田」をキーワードに何かできないかという思いがあります。
- 2つ目ですが、観光の面についてです。若い女性が名刀に「会い」に全国を駆け巡るといふ、「刀剣女子」がブームとなっています。そして、来年、「日本三名槍」が島田に集まると聞きました。「三名槍」が一堂に会する

機会は、今後2度とないかもしれない大変貴重な機会だそうですので、数万人もの「刀剣女子」が島田市を訪れることが予想されます。せっかくの機会ですので、島田市のアピールの場として位置付け、オール島田でお迎えの体制を整えて欲しいと思っています。

○染谷市長

おっしゃるとおりだと思います。

先日、港区との調定式に出席してきました。この協定締結により、都市部の港区と森林資源を豊富に持つ自治体が、連携して国産木材の活用を進めることとなります。島田の木材の売り込みをかけていきたいと思っています。

また、「日本三名槍」のことですが、が平成29年1月21日～3月26日の間、島田市博物館に展示されます。まさに数万人のお客様がおみえになることが想定されており、駅から博物館の動線や玄関口としての駅のお出迎えの体制を検討していくべきだと思っています。期間は、あまりありませんが、商工会、商工会議所、観光協会等と連携し、官民あげたチームを作りたいと思っています。いかがでしょうか。

○C 構成員

賛成です。官民あげてオール島田で連携して対応していきましょう。

○D 構成員

大井川マラソンと一緒に、多くの方に島田市を知ってもらえる貴重な機会だと思います。その貴重な機会を逃さないよう、関係機関で組織を立ち上げて、島田市をPRする取組をするべきだと思います。

○E 構成員

P6の学校に関わることで意見を述べます。

「学校が楽しい児童・生徒」の割合は、A評価、B評価となっています。教師は、日々、授業力向上のため努力をしていますが、授業がわかるとか、友達と仲良く活動できたとか、励まされたとか、そういったものが数値に表れてきているのではないかと思います。

全国学力・学習状況調査についても、市で学力向上委員会を立上げ、分析し授業改善について呼びかけているところです。

また、様々な子どもがいますので、授業が安定して行われるよう支援員さんの配置をしています。さらに、保護者との関係ということでは、スクールソーシャルワーカーも市単独で補助していただいております。学校では、必要に応じてケース会議に呼んで、いろいろなところと連携して、保護者あるいは子どもをサポートしているところです。

これらのことが、「学校が楽しい児童・生徒」の割合の安定につながっていると考えています。引き続き、御協力をお願いします。

○染谷市長

教育は、新しい人を呼び込むためには、非常に重要なことだと思っていますので、市単独の支援員、ソーシャルワーカーについても、変わらず支援をしていきたいと思っています。

- F 構成員 P4について、島田大祭が今年行われましたが、祭に関わっている人達がとても苦勞をしていると聞いています。このままでは、祭の存続に関わるのではないかと危惧をしています。大変難しい問題ではあると思いますが、島田大祭が継続できるよう、市として、もっと関わるようにして欲しいです。また、P6の基本目標3「希望どおり結婚、妊娠、出産し、子どもをまんなかに子育てする」について、D評価が多いです。全国的な傾向として、「晩婚化」、「高齢出産化」いうものがありますが、学生の頃から学校教育の中で、このあたりを教育し、変えていくことができないかと感じています。
- 染谷市長 島田大祭の継続のための市の支援ということですが、今は大祭保存会及び観光協会を通じて資金面での援助をしています。伝統ある祭ですので、「やり方」が決まっています、市の関与は確かに難しい面はあります。しかし、市も同じ危機感を感じていますので、祭が終わったからこれで良しではなく、今こそ3年後に向けてみんなで協議を続けていくべきかもしれません。また、晩婚化・未婚化について、教育の現場でも何かできないかという意見をいただきましたが、何か意見がある方はいらっしゃいますか？
- G 構成員 P6の「出逢い、恋して、結婚する」のところですが、実は昨年度、私どものNPOで「結婚支援事業」を受託させていただきましたので、補足させてください。判定がD評価というのは、当然のことではないかと思えます。人間ですので、出会って、結婚して、子供をつくるというように、先に進んでいくには、どうしても時間がかかります。こういった事業を、将来を見据えて、粛々とやっていくことが大事であると思えます。また、島田市の結婚支援の形は、当人同士の出逢い、出逢うまでのスキルアップ、親同士が出逢う場作りといったように、非常にきめ細やかなことを実施しています。静岡県で、結婚支援を行っている地域の方が一堂に会する「地域連携サポート会議」が催されていますが、島田市の事例は、県内の最も優良な事例として発表されています。
- E 構成員 子どもの教育に関してですが、社会教育課では、赤ちゃんとの触れ合い体験講座を六合中で開催しました。これは、乳児とその母親との交流をとおして、赤ちゃんや子育てへの理解を深め、未来の親教育はもちろん、生命の尊さを学び地域とのつながりを持つきっかけづくりになればということで実施したものです。
- <議事（報告事項）>
- 染谷市長 ありがとうございます。皆様から多くの御意見をいただきました。いただいた意見につきましては、庁内で情報共有を図り、今後の事業、施策に活かしていきたいと思えます。続きまして、報告事項「地方創生に向けた取組について」、事務局から説明をお願いします。

○事務局

資料2、資料3の説明

国の地方創生に関する交付金である「地方創生推進交付金」及び「地方創生拠点整備交付金」を活用していく事業について、説明する。

- ・「地方創生推進交付金」については、藤枝市と連携し、「ICTで人の流れを呼び込む教育・産業づくり推進プロジェクト」を実施予定。
- ・この事業は、ICT コンソーシアムという協議体を「産官学金労」で組織し、当該コンソーシアムが中心となって、事業を進めていく。
- ・既に国に交付申請をしており、11月末には交付決定の見込みである。
- ・「地方創生拠点整備交付金」については、蓬萊橋周辺に物販所等を整備し、さらなる誘客を目的として実施する「蓬萊橋周辺整備事業」を交付申請する予定。
- ・12月中旬、国に申請し、交付決定は1月下旬の見込みである。実際には、予算の繰越処理をし、平成29年度に入ってから事業着手となる。

○染谷市長

蓬萊橋周辺整備事業は、「島田市大井川ミズベリング協議会」を設置して、市単独予算にて、来年の春には完成を目指したいと思っていました。しかし、この国の交付金が出てきまして、活用することで予算的には余裕が出てきますので、完成時期は来年の秋頃となってしまいますが、よりしっかりしたものを整備していきたいと思っています。

ただいまの説明について、質疑、御意見等はありませんか。

○A 構成員

資料2のICTの取組に関連して、「人材育成」の中で、小中学校の生徒さんのICTに関する体験学習がありますが、地元産業のICT化を進めていくような企業について、是非、将来子ども達がこういった会社で働きたいと思えるような雰囲気づくりとか、そういった要素を加味していった事業展開をして欲しいと思います。

別件ですが、会議資料で気になる点がありました。資料5の中で、島田市は、藤枝市に比べ、離婚率が低いです。その理由は何か把握しておりますか。ここは売りになるのではないかと思いました。また、人口1,000人当たりの職員総数についても、藤枝市に比べ多いため、島田市の方が行政サービスが手厚いと捉えることもできます。ここも外部に対して十分PRできることではないかと思いました。

また、少し個人的な発想ですが、理屈で考えていっても、人間はなかなか動かなくて、衝動的に「良い」と思って動くこともあります。そこで私が思い付いたアイデアは、島田市に住んで子どもを産んでくれたら、例えば、中学校の生徒さんがいる家族は、市の補助で、年に1回、家族でディズニーランドに行けるようにするとかどうでしょうか。例えば、過疎地域において、移住・定住施策として、住宅や土地の用意等を聞きますが、それにと比べたら、そんなに大きな経費ではないと思います。かつて、浦安市に若い人口が増えたというニュースがありましたが、それはディスニーランドで成人式をやるということが契機となったと聞きます。意外に人というのは、そんなことを契機に動くものだと思いますので、若い人が戻ってきたいまちづくりを考えていって欲しいと思います。

静岡経済研究所が7月に発表した、若い女性が首都圏に転出して地元に戻ってこない理由として、余暇とか、楽しみの部分がウェイト的に高いと出てい

ました。是非、若い人達が戻ってくるようなことを考えていただきたいと思います。

○染谷市長           ありがとうございます。  
今、市では、消防団に入っている方について、家族でディズニーランドに行ってもらおうようにしています。これは、入団へのお礼の気持ちで始めたものですが、若い消防団員の定着率に大変寄与していますので、ひとつのアイデアとして面白いものだと聞いておりました。

○市長戦略部長   離婚率が低い理由について、1点申し上げます。  
県が平成28年2月に公表した「ふじのくに少子化突破戦略の羅針盤」によりますと、「家族、地域の絆力」が近隣市に比べ高い傾向にあります。「家族、地域の絆力」が高いということは、子育てしやすい環境、子育てをサポートしてくれる環境、また、経済的なサポートをしてくれる環境が整っているとも考えられ、離婚率が低いことに関連があるのではないかと思います。県内の動向を見ても、家族、地域の絆力が高いところは、離婚率が低いという傾向が見受けられました。

○H 構成員           ICT教育のことで、2点教えていただきたいです。人材育成とありますが、教育できる人材の確保はどうしていくのでしょうか？また、そもそもこの「ICT」の伸び代は、こういったところにあるのでしょうか？

○C 構成員           経済産業省では、「新産業構造ビジョン」というものを掲げておまして、その中で、IoT、ビッグデータ、ロボット、人工知能(AI)等による技術革新は、「第4次産業革命」とも呼ぶべきものだとされています。  
そして、それらの技術革新により、付加価値を高め、生産性を上げて、人手不足を解消していこうというものですが、これは地方でも力を入れていかなくてはならないところです。  
ただ、実際には、言葉が踊り、現実には何をやっていけばいいのかわからないところもありますので、今、大事なことは、学生達にICTに関する教育をしていくことによって、裾野が広がっていきますので、そういうICTに関する文化や風土を植え付けていくことが重要だと思っています。

○H 構成員           わかりました。将来を見据え、島田市の子ども達に、ICTの種を蒔いていきたいということですね。

○I 構成員           高校の立場で申し上げます。  
ICT教育は、学校の現場でもよく言われているところで、この流れは非常に重要だと感じています。幸いにも島田市には、商業高校、工業高校がありますので、小学校・中学校の段階で育った芽を、高校でどのように具体的な産業に結び付けていくか、ここが重要であると認識しています。よって、島田市が、小学校・中学校の段階で、どのようなICTに関する教育を施していき、それによりどのような子ども達が高校に進学してくるのか、具体的に把握していく必要があると思っています。  
アプリ開発、オープンデータ等、既に協力させていただいているものもあり

ますが、地元への就職や大学入学のために転出した後に、島田市に戻ってくるということに繋がると思いますので、引き続き協力をしていきたいと思いをします。

○染谷市長 おっしゃっていただいたように、やはり小中高の連携が大事だと思いますので、みなさんの御意見を活かして生きたいと思いをします。

○J構成員 社会貢献の一環で、子どもたちが社会に出るための経験をしてもらうことに主眼を置いて、以前は、高校生を対象に、会社経営を体験させるものをしていました。中身は、経営がメインというよりも、人間的なこととか、心の成熟とか、様々な経験をさせることを目的とするものでした。しかしこれは、あくまでも希望者の参加型で、ごく限られた人数の経験しかありませんでした。ICTの人材育成において、どういふことをやるのが良いのか真剣に考えていただいで、必要であれば、もっと小さい、幼児教育の段階から実施していくこともいいのではないかと感じました。

○染谷市長 ありがとうございます。続きまして、「意見交換」に移りますが、今回は、「島田市の人口推移等について」というテーマを設けさせていただきました。はじめに、事務局から資料4「島田市の人口の現状及び転入者・転出者アンケート集計結果」及び資料5「藤枝市への転出者に係る傾向分析」を御説明させていただきます。その後、皆様と意見交換をさせていただきたいと思いをしますが、報告に対する感想、報告を踏まえた御提案等、自由な意見交換の時間としたいと思いをしますので、積極的な御発言をお願いいたします。それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局 **資料4、資料5**の説明

「島田市の人口の現状及び転入者・転出者アンケート集計結果」及び「藤枝市への転出者に係る傾向分析」について説明する。

- ・前回の「島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」において、当該会議構成員の皆様へ御提案をいただき、実施を始めた。
- ・今まで把握していなかった転出入の理由について把握するため、7月1日から市民課等の窓口において、転入・転出の届出をされた方にアンケート調査を実施している。
- ・7月～9月の間のアンケート結果について、集計したものを報告
- ・藤枝市が「転入超過」の状態であるため、島田市との都市比較をすると共に、島田市から藤枝市への転入者について傾向分析したものを報告

○染谷市長 ありがとうございます。残りわずかの時間しかなくて申し訳ありませんが、皆様からご要望いただいでおりました資料について、御報告ができたと思いをします。今の説明に対する御感想、御提案等、何でも構いませんので、自由に御発言ください。

- D 構成員 次代の商工業者が抱えている課題にしっかり対応しなくてはならないと思うわけですが、そういう中で「島田市産業支援センターおびサポ」は、近隣の市町村の中でも突出して課題に取り組んでいる組織であると高い評価を受けています。事業所がしっかりしていないと雇用は守れませんので、「おびサポ」を活用しながらも、また、うちでしかできないこともありますので、しっかり連携して、事業所のサポートに取り組んでいきたいと思っています。「人口減少時代」ということを考えると、やはり島田市を選んでもらえる街にしていかななくてはなりません。増えていく要素としては、「結婚して住むなら島田だね」と言われるようなまちを目指すことが良いのではないかと思います。子育て支援の重要性が叫ばれる中で、「結婚して住むなら島田」と思うときは、子どもを育てる環境をまず考えるはずだと思います。生活環境のよさ、インフラの充実、買い物ができること等、このあたりがしっかり充足されるまちになることが、「人口減少」に対応することになるのではないかと感じます。
- 染谷市長 おびサポは、「島田型」と呼ばれ、国からも注目をいただいております。まだ、半年過ぎたところではありますが、次年度以降に向けて、成果をしっかりと出していきたいと思っています。
- J 構成員 転入・転出アンケート結果によりますと、女性はその移動を決めた理由として、「結婚」がキーワードになっているようです。逆に言えば、島田市民の若い男性が魅力ある男性になれば、結婚を機会に女性を島田市に呼び込むことができるのではないかと感じます。そのためには、何度も申し上げておりますが、小さい頃からの教育というものが重要となるのではないのでしょうか。
- D 構成員 若い世代は、非常に活力ある人材だと感じています。様々なイベントを実施する際には、積極的にやってくれていますし、今度やる「三名槍」でも、青年部が活躍してくれると思います。来てくれる方々は、「刀剣女子」と呼ばれる若い女性ですし、運営するのが若い男性なので、そういった意味でも楽しみにしています。
- K 構成員 資料を揃えていただきましてありがとうございます。資料4 P 4のところですが、20代から40代の転出の割合が本当に多いなという印象があります。また、市の人口ビジョンP18に記載されています「転入・転出の性別・年齢別構成」ですが、18歳から40歳までの転入・転出の差引は、60前後となり、社会均衡の状態は、全く不可能な数字ではないなというのが、正直な感想です。そんななかアンケート結果を見させていただきましたが、このデータに基づいて、施策を実行していく必要があると思います。例えば、結婚支援の取組では、対象の女性を市外の女性に限定して、外から市内に連れてくるような企画も良いのではないかと感じました。
- あと、以前、市役所の若手職員を対象に「理想のまちづくり」をテーマにワークショップをやらせていただきました。ワークショップの中では、「自然豊か」や、「子育てがしやすい」等の意見が出ました。しかし、ワークショップが終わって、雑談する中で、「実際に住みたいまちはどこ？」と聞いたところ、「都会」であると答えていました。このデータももちろん重要で

が、実際の生の声を聞くことも重要だと感じています。

2月には、「30歳の同窓会」があります。我々も微力ながら協力させていただきますので、よろしくお願いします。

○染谷市長 「30歳の同窓会」は2月4日ですね。よろしくお願いします。  
若い職員が、都会に魅力を感じるという話をさせていただきましたが、島田市の魅力は、「地域のまとまりが持てる」ことであると感じています。藤枝市から島田市に転入された方がおっしゃっていましたが、藤枝市は転入者は多いけれど、藤枝市民であるという意識が希薄で、まとまりがないということです。この「地域力」こそが、島田市の資源であり、魅力なのではないでしょうか。

○F 構成員 窓の外を見てください。ご覧の通り、竹やぶがとて多くなってしまうことです。このことは地域で大変深刻なことだと捉えています。農業・林業に従事する人がいなくなると、竹やぶが増えてしまいます。人口減少問題を考える時、そういったことも考慮していただきたい問題であると思います。

○L 構成員 私も結婚を機会に藤枝市から島田市に転入してきましたが、自分のことを振り返ると、夫が住んでいるということで、居住地を決めており、子育て環境まで考えてはいませんでした。しかし、結婚を機会に転出入を決める方が多いということなので、PR方法までは思いつきませんが、もっと子育て環境の良さをアピールしていけば、さらに転入者の増加が期待できるのではないかと感じました。

○染谷市長 ありがとうございます。時間の関係で、構成員の皆様の御発言の時間を十分に確保できず申し訳ありませんでした。皆様の御協力により、本日の議事につきましては、無事終了いたしました。誠にありがとうございました。  
それでは、会議の進行を事務局へ戻します。

○市長戦略部長 ありがとうございます。以上をもちまして、予定をしておりました議事はすべて終了いたしました。次回、市民会議は平成29年3月17日を予定しております。日程が近づきましたら、改めて通知をさせていただきます。  
本日は、御多用の中、御出席いただきまして、ありがとうございました。  
それでは、以上をもちまして「平成28年度第2回島田市まち・ひと・しごと創生市民会議」を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。